

# 教育委員会事務点検・評価報告書

(令和3年度事業対象)

令和4年9月

竹原市教育委員会

# 目次

1	教育委員会の事務の点検・評価制度について	1
2	評価の方法	2
3	令和3年事業の点検及び評価	3
	(1) 学校教育	
	(2) 生涯学習・青少年育成	
	(3) 歴史・文化財	
4	評価委員の点検・評価	33
6	参考資料	41
	(1) 竹原市教育大綱（抜粋）	
	(2) 令和3年教育委員会会議開催実績	
	(3) 令和3年度全国学力・学習状況調査結果	
	(4) 令和3年度体力テストの結果	
	(5) 生徒指導上の課題（令和元年度～令和3年度）	
	(6) 令和3年度図書館・美術館利用状況	

# 1 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年度から、全ての教育委員会は、毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることも規定されています。

竹原市教育委員会では、この法律に基づき、教育委員会の事務の点検・評価を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化を進めてまいります。

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (平成19年6月27日一部改正)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 評価の方法

### (1) 点検・評価の対象となる事業

竹原市では、平成31年3月に「竹原市教育大綱」を策定し、市長部局と教育委員会が連携し、取り組むべき3つの柱を掲げました。そのうち、重点的に取り組む施策を推進するための事務事業について、令和3年度の実績に基づき、それぞれ点検・評価を行います。

#### 【竹原市教育大綱】

- ・学校教育（評価対象事業数 12）
- ・生涯学習・青少年育成（評価対象事業数 5）
- ・歴史・文化財（評価対象事業数 3）

### (2) 対象となる期間

令和3年度とします。

### (3) 点検・評価の方法

評価対象事業となる20の事業について、必要性、効率性及び有効性の観点を中心に、前年度の評価委員からの意見を踏まえ、評価シートごとに、点検・評価を行いました。

個別評価及び総合評価については、達成度及び今後の方向性を次のとおりそれぞれ4段階評価及び7段階評価で行いました。

#### 【達成度（4段階評価）】

達成度
達成している
ほぼ達成している
ある程度達成している
達成していない

#### 【評価基準（7段階評価）】

評価
拡大・重点化
改善
継続
縮小
終了・完了（今年度中）
統合（今年度中）
廃止（今年度中）

### (4) 評価委員による評価

5名の学識経験者の方による外部評価を行いました。

### 3 令和3年度事業の点検及び評価

#### (1) 学校教育

重点的施策	点検・評価の対象事業
地域ともにある信頼される学校づくりの推進	コミュニティ・スクール導入事業
	教職員の人材育成
幼保小連携教育の推進	スタートカリキュラム
「確かな学力」の向上	未来の人材育成事業
	「学びの変革」全校展開
	学校 ICT 活用教育推進事業
	特別支援教育，介助員配置
「豊かな心」の育成	生徒指導支援事業
	竹原市キャリアスタートウィークの実施 道徳教育推進
「健やかな体」の育成	体カテスト分析を通じた指導の工夫改善
充実した教育環境づくり	小中一貫教育の推進
	竹原市立学校適正配置懇話会事業

#### (2) 生涯学習・青少年育成

重点的施策	点検・評価の対象事業
生涯学習拠点・機会の充実	地域交流センター運営事業
	図書館運営事業
	竹原市総合文化祭開催事業
	竹原市立学校児童生徒図画書道展開催事業
学校と地域の協働による生涯学習の推進	学びから始まる地域づくりプロジェクト 文化芸術体験等事業
スポーツ・芸術の振興	スポーツ推進委員活動事業
	トップアスリート等スポーツ教室
	各種大会等開催事業
	竹原市美術展開催事業
家庭・学校・地域等の連携による教育力の向上 の推進	家庭相談員，こども会育成事業
	青少年育成竹原市民会議

(3) 歴史・文化財

重点的施策	
	点検・評価の対象事業
文化財の保存・承継の推進	文化財指定事業 旧森川家住宅調査分析事業 伝統的建造物群保存事業
文化財の活用の推進	文化施設管理運営事業 歴史的建造物社会実験実施事業
歴史資産の普及啓発の推進	竹原歴史文化啓発事業 埋蔵文化財啓発事業

<b>重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進</b> <b>【学校教育】</b>		<b>担当課</b>						
<b>事業内容</b>		総務学事課						
○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進								
<b>事業目標</b>								
<p>法規法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。</p> <p>また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。</p>								
<b>主要事業</b>								
コミュニティ・スクール 導入事業 〔決算額〕 260 千円	<b>【事業概要】</b> 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5により、学校運営協議会を全ての学校に設置する。 <b>【取組内容】</b> 令和3年度、学校運営協議会を全校へ設置し、コミュニティ・スクールが本格的にスタートした。コロナ禍の影響で、学校運営協議会が計画的に開催されなかった学校もあるが、機会をつくっては、学校運営の基本方針や学校の必要な支援などについて様々な立場で協議し、学校運営に地域の皆さんの声を生かしてきた。しかし、市主催として計画していた先進校視察、研修会、交流会等は実施できなかった。新規にスタートした学校運営協議会へは事務局から積極的に参加し、指導助言を重ね円滑なスタートに向けた支援を行った。 <b>【実施状況】</b>							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置する。</td> <td>4校において、学校運営協議会を設置するとともに全校において設置準備完了。</td> <td>市内全校において、学校運営協議会を設置した。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和2年度	令和3年度	令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置する。	4校において、学校運営協議会を設置するとともに全校において設置準備完了。	市内全校において、学校運営協議会を設置した。	
項 目	令和2年度	令和3年度						
令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置する。	4校において、学校運営協議会を設置するとともに全校において設置準備完了。	市内全校において、学校運営協議会を設置した。						
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>						
市内全ての学校において、学校運営協議会を設置し、育てたい子供の姿や、目指すべき教育のビジョン、これらを学校と保護者、地域と共有し、学校運営に主体的に参画していただくことを通して、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めていくシステムを構築した。		達成している						
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>						
市主催の学校運営協議会委員を対象とした研修会等を実施し、コミュニティ・スクール導入の意義、めざすべき姿、効果など共通理解を図ることを通して、学校と教育目標を共有しながら、学校や子供たちの課題解決や教育活動の充実に向けて建設的な議論ができる学校運営協議会の運営をめざす。		継続						

<b>重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進</b> <b>【学校教育】</b>		<b>担当課</b>						
<b>事業内容</b>		総務学事課						
○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進								
<b>事業目標</b>								
<p>法規法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。</p> <p>また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。</p>								
<b>主要事業</b>								
教職員の人材育成 [決算額] 非予算	<b>【事業概要】</b>							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施及び校長ヒアリング等を通し計画的な人材育成を推進する。</li> <li>・学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。</li> <li>・学校経営の参画意識を高め、将来学校経営を担うミドルリーダー層を育成する。</li> </ul>							
	<b>【取組内容】</b>							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長による人材育成計画に基づき、ヒアリングを通して校内における適材適所による個々の資質・能力に応じた人材育成について助言を行った。</li> <li>・キャリアステージに応じた市主催の研修を実施し、主任層をはじめミドルリーダー層への学校経営への参画意識の醸成、若手教職員の力量向上を図った。</li> </ul>							
	<b>【実施状況】</b>							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>管理職選考</th> <th>推薦研修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度、管理職選考を校長職2名以上、教頭職3名以上受験させ、推薦研修には3名以上推薦する。</td> <td>校長選考へ6名、教頭選考へ3名が受験した。</td> <td>中央研修へ1名、教育総合講座へ2名推薦した。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	管理職選考	推薦研修	令和3年度、管理職選考を校長職2名以上、教頭職3名以上受験させ、推薦研修には3名以上推薦する。	校長選考へ6名、教頭選考へ3名が受験した。	中央研修へ1名、教育総合講座へ2名推薦した。	
項 目	管理職選考	推薦研修						
令和3年度、管理職選考を校長職2名以上、教頭職3名以上受験させ、推薦研修には3名以上推薦する。	校長選考へ6名、教頭選考へ3名が受験した。	中央研修へ1名、教育総合講座へ2名推薦した。						
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>						
個々の教職員のもつ資質・能力やキャリアを生かした人材育成や適材適所による校務分掌の業務担当を推進している。 各主任や各教育内容担当者を対象とした研修会を計画的に実施し、専門性の向上を図ったり、次期管理職候補の育成をめざしたスクールリーダー育成研修を実施したりすることにより、組織マネジメントの視点を活かした人材育成を推進することができた。		ほぼ達成している						
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>						
教頭候補となる主任層の人材を育成することを重点に置き、主任として各部のマネジメントを通して、学校経営への参画意識を高めていくとともに、各教育内容担当者を対象とした市主催研修を通してミドルリーダーを育成していく。また、校内における人材育成を推進していく。		継続						

重点的施策 幼保小連携教育の推進【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○幼保小連携の推進 ○幼保小接続カリキュラムの編成・実施		
事業目標		
園所等で培った育ちと学びを小学校での学びにつなぐ教育活動を実現するため、相互が連携し、カリキュラムを作成する等、就学前教育と小学校以降の教育の円滑な接続を図る		
主要事業		
スタート カリキュ ラム 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b> ・スタートカリキュラム策定に関わる指導助言を行った。 ・幼保小連携教育研修会を実施した。  <b>【取組内容】</b> ・スタートカリキュラムを全校が作成し、市主催の幼保小連携教育研修会において、それぞれのカリキュラムの見直し等を行った。 ・5月段階の小学校第1学年の授業を小学校（義務教育学校前期課程）及び園所の担当者合同で参観し、子供の姿をもとに研修を実施した。	
点検結果		達成度
小学校における授業参観を合同で行うことができた。また、小学校、義務教育学校において、育てたい資質・能力を明確にしたスタートカリキュラムをもとに、児童の実態や目指す姿を意識した見直し等を行うことで、円滑な接続ができるよう担当者同士で共有することができた。		達成している
今後の取組		今後の方向性
昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合型の研修を実施することができなかったが、今年度は5月に小学校等及び認定こども園等の教職員を対象とした、第1学年の授業参観を組み込んだ合同研修会を実施することができた。授業の中での子供たちの姿とお互いが作成しているカリキュラムに係る連携を行うことができた。来年度は幼保小連携協議会を設置し、計画的な推進が図れるように体制づくりを行うとともに、合同研修会を定期的実施し、指導方法やカリキュラムの充実改善を図る。		継続

重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課	
事業内容		総務学事課	
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進			
事業目標			
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。			
主要事業			
未来の人材育成事業 [決算額] 1,533千円	<b>【事業概要】</b> ・海外派遣研修事業の代替としてオンラインによる海外交流を実施した。 ・1 DAY 国内留学 I 及び II を実施した。		
	<b>【取組内容】</b> ・新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、ハワイへの海外派遣を中止とした。そこで、ハワイの文化や歴史を学習し、さらにハワイの中学生や留学生との交流会をオンラインで実施することで、海外への興味を持つとともに、外国語学習への意欲を高めることができた。 ・小学校及び義務教育学校第5・6学年、中学校第1学年及び義務教育学校第7学年を対象とした1 DAY 国内留学 I，中学校第2・3学年（義務教育学校第8・9学年）を対象にした1 DAY 国内留学 II を実施し、これまで身に付けた英語力やコミュニケーション力を活用することができた。 （参加者の感想） ・色々な外国の人と関わることができて、とても楽しくて良かったです。 ・他の国のことをたくさん知ることができて良かったです。 ・外国人と話すことができて自分の気持ちを言えたことが良かったです。 ・今の自分がどのくらい英語で話をできるか分かった。 ・留学生と話すことによって、自分をもっと勉強しなければならないことを知ることができた。 ・海外の人の速い英語を聞いたり、知らない単語を知ったりすることができた。		
<b>【実施状況】</b>			
項 目		令和2年度	令和3年度
英語検定3級取得率		42%	32%

点検結果	達成度
<p>1 DAY 国内留学Ⅰでは、15名の児童生徒が参加し、ゲームや紹介カードづくりを通して、外国の文化を知るとともに、英語によるコミュニケーションを楽しむことができた。また、中学校第2・3学年及び義務教育学校第8・9学年6名の生徒が参加した1 DAY 国内留学Ⅱでは、参加者が英語に対する興味・関心を高めるとともに、これまでの既習内容を活用し、英語で説明したり、お互いの意思疎通をしたりする等、英語を使ってコミュニケーションする場を設定することができた。</p> <p>また各学校においてハワイとのオンライン交流会を行ったことで、他文化を知るとともに、留学生との交流により、今後の自分の生き方につなげることができた。</p>	ある程度達成している
今後の取組	今後の方向性
<p>引き続き、取組を進め、児童生徒の英語に対する興味・関心を高めるとともに、海外派遣事業の推進を図ることで、日常的に英語によるコミュニケーション力を高め、国際社会で活躍できる人材の育成を図る。</p> <p>また、各学校において英検受験について声かけをしてもらう。</p>	継続

<b>重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】</b>		<b>担当課</b>						
<b>事業内容</b>		総務学事課						
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進								
<b>事業目標</b>								
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。								
<b>主要事業</b>								
「学びの変革」全校展開 [決算額] 非予算	<b>【事業概要】</b> ・ 県教委「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の指定を受け、つまずきを分析する等、実践的な研究を推進した。(竹原西小学校) ・ 県教委「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、カリキュラム開発等に関する実践的な研究を推進した。(吉名学園)							
	<b>【取組内容】</b> ・ 「学びの変革」推進協議会では、「本質的な問い」に焦点をあて、各教科等の見方・考え方に応じた授業改善を行った。また、「主体的な学び」の実現に向けた授業づくりや授業参観の視点等、各校の研究主任を対象とした研修を年3回実施した。 ・ 学力に課題が大きい児童を対象とした実態の把握と課題の背景にある要因を分析し、指導方法に焦点を当てた手立てを研究した。 ・ 学校訪問指導を行い、「主体的な学び」の実現に向けて、授業改善を推進した。							
<b>【成果指標】前期目標（令和5年）</b> <小学校>国語 3.0% 算数 2.0% <中学校>国語 1.0% 数学 0.5% 英語 2.0%								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎学力が定着している児童生徒の割合（全国学力学習調査通過率）（広島県平均比較）</td> <td>新型コロナウイルス感染症拡大により中止</td> <td>           &lt;小学校&gt;            国語 1.0% 算数▲1.0%            &lt;中学校&gt;            国語▲4.0% 数学▲2.0%         </td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和2年度	令和3年度	基礎学力が定着している児童生徒の割合（全国学力学習調査通過率）（広島県平均比較）	新型コロナウイルス感染症拡大により中止	<小学校> 国語 1.0% 算数▲1.0% <中学校> 国語▲4.0% 数学▲2.0%	
項 目	令和2年度	令和3年度						
基礎学力が定着している児童生徒の割合（全国学力学習調査通過率）（広島県平均比較）	新型コロナウイルス感染症拡大により中止	<小学校> 国語 1.0% 算数▲1.0% <中学校> 国語▲4.0% 数学▲2.0%						

点検結果	達成度
<p>小学校の国語では、県平均を上回ったものの、小学校算数及び中学校国語、数学は県平均を下回った。特に中学校ではその差が大きい。取組の効果が児童生徒の学力向上につながっていないと考えられる。各校で結果を分析し、課題を克服するための具体策を「改善計画」にまとめ、取組を行った。県平均より2ポイント以上下回った学校については、指導主事が訪問し、授業改善や進捗の確認を行った。</p> <p>また、「本質的な問い」を設定した授業を各校で実践し、学習指導案としてまとめた。このような取組を日々の授業改善に生かすことが必要である。</p>	<p>ある程度達成している</p>
今後の取組	今後の方向性
<p>各学校において、改善計画に基づいた具体的な取組とともに、学校全体で基礎基本を定着させる取組を継続していく。(ドリルタイムなど)</p> <p>また、一人1台端末を効果的に活用するなど、個別最適な学びにつながる方策も構築していく必要がある。</p> <p>さらに、指定校の研究成果を市内の学校に還元する場を設定することで、指導方法や単元づくり等の改善が図られるようにしていく。</p>	<p>継続</p>

<b>重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】</b>		<b>担当課</b>					
<b>事業内容</b>		総務学事課					
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進							
<b>事業目標</b>							
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。							
<b>主要事業</b>							
学校 ICT 活用 教育推進事業 [決算額] 1,973 千円	<b>【事業概要】</b> ・タブレット型端末及び電子黒板等 ICT 機器の活用を進めた。 ・ICT 支援員を配置した。						
	<b>【取組内容】</b> ・一人1台端末を配布することができた。併せて、昨年度から引き続き、具体的な活用方法や実践などの演習を行うための研修を年間2回行った。 ・ICT 支援員を1名配置し、授業支援等を行った。 ・タブレット端末及び電子黒板を活用した授業実践を充実させた。						
	<b>【実施状況】</b> <table border="1" data-bbox="427 1240 1246 1357"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ICT 活用授業（週時間数）</td> <td>週 22 時間</td> <td>週 45 時間</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和2年度	令和3年度	ICT 活用授業（週時間数）	週 22 時間	週 45 時間
項 目	令和2年度	令和3年度					
ICT 活用授業（週時間数）	週 22 時間	週 45 時間					
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>					
一人1台端末を授業等で活用できるよう、各校の ICT 活用教育推進リーダーを対象とした研修を年間2回行った。また、タブレット型端末の活用調査では、活用時間が週45時間であった。端末の整備したことにより ICT を効果的に活用した授業展開が広く行われるようになり、活用場面も広がっている。コロナ禍で集合型が難しい際、オンラインによる学習方法も工夫して実施しており、効果的な指導方法の開発も見られた。		達成している					
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>					
ICT 支援員を計画的に各校に配置し、ICT 機器を活用した授業実践を充実させる。また、「個別最適な学び」の実現に向け、個の実態や教科の特性等に応じた活用方法を工夫改善する必要がある。今後も教員対象の研修をさらに充実させることで、活用の幅を広げていく。		継続					

重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課
<b>事業内容</b>		総務学事課
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進		
<b>事業目標</b>		
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。		
<b>主要事業</b>		
特別支援教育 〔決算額〕 270千円	<b>【事業概要】</b> ・特別支援教育相談委員会を開催した。 ・介助員を配置（28人）した。	
介助員配置 〔決算額〕 42,805千円	<b>【取組内容】</b> 特別支援教育相談委員会規則に基づき、児童・生徒が適切な教育を受けられるよう就学指導を行った。 学校生活や授業において、支援・介助を必要とする児童生徒に対して介助員を配置した。	
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>
特別な支援が必要と思われる児童・生徒が、適切な教育を受けるために専門的見地から就学指導を行うため、特別支援教育相談委員会において協議している。 介助を配置することにより、児童生徒の学校生活や授業での自立を支援し、その能力と適性を伸長することができた。		達成している
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>
児童・生徒が適切な教育を受けられるよう継続する。		継続

<b>重点的施策 「豊かな心」の育成【学校教育】</b>		<b>担当課</b>	
<b>事業内容</b>		総務学事課	
○体験活動の充実 ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進			
<b>事業目標</b>			
規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。			
<b>主要事業</b>			
生徒指導支援 事業 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b>		
	・生徒指導支援を担う教員を配置した。 ・教育相談事業を実施した。		
	<b>【取組内容】</b>		
	・中学校に生徒指導支援を担うための再任用教諭を配置し、学校の生徒指導に係る組織的な対応を支援した。 ・適応指導教室や民間企業委託により不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援や相談業務を行った。		
	<b>【成果指標】前期目標（令和5年）＜小学校＞0.15% ＜中学校＞3.00%</b>		
		令和2年度	令和3年度
	不登校児童生徒の割合	小 0.4% 中 2.0%	小 0.3% 中 4.5%
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>	
生徒指導の支援を目的とした再任用教諭に中学校に配置することで、生徒の問題行動への指導やその対応に係る教職員への支援を行うことができた。また、適応指導教室や民間企業委託では、不登校傾向にある生徒の相談や学習支援等を行い、社会的自立に向けた取組を進めることができた。 しかし、不登校の割合は増加しているため、個の背景や状況を把握し、改善に向かうよう、継続した支援が必要である。		ある程度達成している	
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>	
生徒指導支援を担う教員を活用し、問題行動やその背景を明らかにするとともに、保護者や関係機関と連携しながら取り組んでいく。また、SCやSSWと連携し、児童生徒や保護者の困り感を把握し、解決策や改善策を見出していく。 さらに来年度は、自宅から出ることが難しい児童生徒の訪問も視野に入れた民間企業委託に重点をおき、解決に向けての選択方法をさらに増やし、学校とより一層連携することで、個にあった対応ができるようにしていく。		継続	

重点的施策 「豊かな心」の育成【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○体験活動の充実 ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進		
事業目標		
規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。		
主要事業		
竹原市キャリア アスタートウィークの実施 〔決算額〕 0千円 道徳教育推進 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度キャリアアスタートウィークに向けた事務局会を実施した。</li> <li>竹原市道徳教育推進協議会を年間2回実施した。</li> </ul> <b>【取組内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアアスタートウィークは新型コロナウイルス感染症拡大のため中止したが、コロナ禍を想定した来年度からの実施方法や内容について事務局会で整理した。</li> <li>県指導主事を招聘し、竹原市道徳教育推進協議会を年2回実施した。研究授業、協議、講話により、道徳科の授業づくりやカリキュラム・マネジメントの視点を生かした道徳教育推進についての研修を行った。</li> </ul>	
点検結果		達成度
<p>今年度よりコミュニティ・スクールが全校でスタートしたため、キャリアアスタートウィークの実施方法や内容について、各校の特色が生かせる取組になるよう協議し、今後の方向性を定めることができた。</p> <p>竹原市の道徳教育推進協議会を小学校、中学校、義務教育学校の道徳科授業をもとに実施した。1時間のねらいを達成するための指導方法の工夫や評価についての研修や、カリキュラム・マネジメントの視点を生かした道徳教育の推進について、全体計画をもとに研修を深めることができた。</p>		達成している
今後の取組		今後の方向性
<p>各校において生徒につけたい資質・能力を明確にした、地域の特色を生かした内容になるよう、キャリアアスタートウィークの充実を行う。</p> <p>道徳教育推進協議会を計画的に実施し、豊かな心の育成を行う。また ICT機器の更なる充実に向け、情報モラルの視点での研修ができるようにしていく。</p>		継続

<b>重点的施策 「健やかな体」の育成【学校教育】</b>		<b>担当課</b>	
<b>事業内容</b>		総務学事課	
○健康教育の充実 ○体力づくりの充実 ○食育の充実			
<b>事業目標</b>			
健やかな心身の発達のために、体力づくりや食育を計画的に推進する。			
<b>主要事業</b>			
体力テストの 分析を通じた 指導の工夫改 善 〔決算額〕 0千円	<b>【事業概要】</b>	体力テスト事業を実施する。	
	<b>【取組内容】</b>	全学年において体力テストを実施するとともに、その結果を分析し、授業や行事等の取組に生かし、児童生徒の体力の向上を図った。	
	<b>【成果指標】 前期目標（令和5年） &lt;小学校&gt;96.9% &lt;中学校&gt;50.0%</b>		
	項 目	令和2年度	令和3年度
	新体力テストの広島県の平均以上の種目の割合（全学年）	新型コロナウイルス感染症拡大により中止	県の調査対象が小5及び中2に変更となったため、比較不能
<b>点検結果</b>			<b>達成度</b>
昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため体力テストを中止したが、今年度は実施することができた。令和3年度から広島県及び国の調査が小5及び中2のみの調査となったが、本市は課題解決のためこれまで通り全学年で実施した。調査結果の分析を行うことで課題を明確にし、保健体育科（体育科）はもとより休憩時間や家庭学習を活用し、取組を行った。			ある程度達成している
<b>今後の取組</b>			<b>今後の方向性</b>
各校においては児童生徒の課題の的確な分析を行うとともに、成果の上がる改善計画の作成・実施が必要である。また、中学校及び義務教育学校後期課程では保健体育科の授業以外にも部活動や学校行事等における体力づくりの実践を進める必要がある。 さらに、「運動やスポーツ好きの児童生徒」の育成に向け、授業内容の改善充実を図っていく。			継続

<b>重点的施策 充実した環境づくり【学校教育】</b>		<b>担当課</b>
<b>事業内容</b>		総務学事課
○小中一貫教育の推進 ○学校の適正配置		
<b>事業目標</b>		
学校施設の修繕，小中一貫教育の推進，学校規模の適正化など充実した教育環境の整備に努める。		
<b>主要事業</b>		
小中一貫教育の推進 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b> 9年間を見通した指導を徹底するため，小中一貫教育に取り組んだ。  <b>【取組内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年より義務教育学校吉名学園が開校，令和3年度は忠海学園が義務教育学校となり，9年間を見通した特色ある学校づくりを進めた。</li> <li>・竹原中学校区及び賀茂川中学校区については，引き続き連携型小中一貫教育を行った。</li> </ul>	
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>
義務教育学校吉名学園については，とりわけ総合的な学習の時間において「YOSHINA未来学」を中心としたカリキュラムの改善を図った。また，令和3年度に開校した忠海学園では，学校運営協議会を効果的に活用し，教育内容の充実を図る取組や実践も見られた。他の中学校区においても，定期的に小中一貫教育に関する会を開催し，組織的に取組を進めることができている。		達成している
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>
小中一貫教育の取組についてはコミュニティ・スクールの取組と関連を図りながら進める。		継続

重点的施策 充実した環境づくり【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○小中一貫教育の推進 ○学校の適正配置		
事業目標		
学校施設の修繕，小中一貫教育の推進，学校規模の適正化など充実した教育環境の整備に努める。		
主要事業		
竹原市立学校 適正配置懇話 会事業 〔決算額〕 515千円	<p><b>【事業概要】</b> 竹原市立学校の適正配置等を図るにあたり，竹原市立学校適正配置懇話会を設置し，市立学校のブロック制や統合再編及び学校選択制等について諮問した。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者，各学校運営協議会委員，学校関係者及び市職員14名で組織される竹原市立学校適正配置懇話会を開催し，今後も見込まれる児童生徒数の減少によって生じる小規模校の課題を踏まえ，市立学校の配置のあり方について，熱心な議論を行っていただいた。</li> </ul> <p>(答申の主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合再編にあたっては，各学校の特色ある取組を活かし融合しながら，新たな特色を創り出すとともに，先に創立した義務教育学校の取組を先例にし，竹原市らしい「学校運営協議会を中核とした義務教育学校」へと段階的に統合再編していき，「地域に根ざした9年間の系統性のある小中一貫の教育」や「地域の教育力を活かした特色ある教育」を行うことが必要である。</li> </ul>	
点検結果		達成度
当初予定どおり，第2回から第7回の懇話会（うち1回は学校訪問）を開催（非公開）し，学校の存続問題と子供たちの未来への責任という両面を踏まえながら，伝統を継承しつついかに未来に向いていくのかという視点で，各委員からの自由闊達な意見を取りまとめ，将来を見据えた市立学校の適正な在り方等について答申を受けることができた。		達成している
今後の取組		今後の方向性
今後は，懇話会からの答申を踏まえ，パブリックコメントにより市民の意見も聞きながら，竹原市立学校適正配置計画を策定し，学校の統合再編等の推進を図る。統合再編を進めるにあたっては，説明会等において，保護者や地域住民に十分寄り添い，理解を得ながら丁寧な対応を行う。		継続

重点的施策 生涯学習拠点・機会の充実【生涯学習・青少年育成】		担当課	
事業内容		文化生涯学習課 地域づくり課	
<p>○拠点施設の周知広報と学校や文化活動団体等との連携による利用促進</p> <p>○地域課題やニーズに応じた講座等の提供</p>			
事業目標			
市民が生涯学習に取り組む機会を創出し、市民のニーズを満たす学習内容の提供に努めるために生涯学習拠点・機会の充実に取り組む。			
主要事業			
地域交流センター運営事業 〔決算額〕 63,668千円	【事業概要】 個人の学びに加え、社会ニーズも踏まえた学びを実践するとともに、その学びの成果を活用し、社会全体の教育力を向上させるため、地域交流センターにおいて各種講座、教室等を実施する。		
	【取組内容】 各地域交流センターの創意工夫のもと、地域文化の伝承、教養の向上、体育レクリエーション、家庭教育、ボランティア育成などの講座を実施した。 また、地域住民が講師になり、自治会、協働組織とも連携を行うなど、様々な人材の活用の取組を行った。		
	【実施状況】		
	項 目	令和2年度	令和3年度
	地域交流センター利用者数	54,008人	55,111人
図書館運営事業 〔決算額〕 53,718千円	【事業概要】 市民生活や教養、芸術文化の向上に資する書籍等を収集し、それらを市民に広く提供することにより、市民の生涯学習環境を充実させる。		
	【取組内容】 民間事業者のノウハウとスキル活かした新しいサービスや魅力ある事業の展開を目的として図書館の管理運営業務を指定管理者株式会社図書館流通センターに委託し、これまでの図書館サービス及び移動図書館車巡回や電子図書館サービス、市内小中義務教育学校、地域ボランティアとの連携や、絵本作家くすのきしげのり氏講演会、子供向け映画会（ふしぎの国のアリス）、利用者アンケートの実施など新規事業を行った。		

		【成果指標】 前期目標（令和5年）38,000人	
		令和2年度	令和3年度
		図書館利用者数	36,866人
竹原市総合文化祭開催事業 〔決算額〕 348千円	<b>【事業概要】</b>	市内の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市文化団体連盟と共催し、総合文化祭を開催する。	
	<b>【取組内容】</b>	竹原市文化団体連盟と、竹原市総合文化祭を共催して、舞台部門・展示発表等の機会および鑑賞の機会を提供するとともに、芸術文化振興の向上に寄与した。	
	<b>【実施状況】</b>		
		令和2年度	令和3年度
	参加団体数	7団体	20団体
竹原市立学校 児童生徒図画 書道展開催事業 〔決算額〕 333千円	<b>【事業概要】</b>	児童生徒の芸術文化活動の活性化を図るとともに、芸術に対する親しみと心の豊かさを育むため、竹原市立学校児童生徒図画書道展を開催する。	
	<b>【取組内容】</b>	市内小中義務教育学校、竹原市美術協会との連携により、図画書道展を開催し、児童生徒が文化芸術に触れ合う機会を確保し、心の豊かさの向上に寄与した。	
	<b>【実施状況】</b>		
		令和2年度	令和3年度
	図画・書道展応募者数	2,015人	1,921人
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>	
令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、施設の休館等を実施したことから、生涯学習拠点施設の利用数は減少したものの、感染防止対策を行ったうえで、市民が生涯学習に取り組む機会を創り出した。		ほぼ達成している。	
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>	
関係課、関係団体と連携を取りながら、環境の充実及び利用者増に向けた取組を行っていく。		継続	

<b>重点的施策 学校と地域の協働による生涯学習の推進</b>		<b>担当課</b>							
<b>【生涯学習・青少年育成】</b>									
<b>事業内容</b>		文化生涯学習課							
○学校と地域の連携強化による生涯学習環境の充実 ○生涯学習を通じた地域活動の担い手の育成									
<b>事業目標</b>									
学びの成果を地域社会に還元し、地域の活力を高めるため、地域活動を担っていく人材の育成に取り組む。									
<b>主要事業</b>									
学びから始まる地域づくりプロジェクト (県モデル事業) [決算額] 0千円	<b>【事業概要】</b> 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である地域交流センターが、行政や地域の関係機関・団体等と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進できるよう、支援を行う。								
	<b>【取組内容】</b> 令和2年度から、引き続き、県モデル事業に採択されており、「コミュニティ・スクールに社会教育がどのように関わっていくか」をテーマに、地域交流センターを拠点として、学校と地域が連携して子育てや地域づくりに取り組むモデルの検討を行っているが、新型コロナウイルスの影響を受け、研修会等の実施は困難な状況であった。 令和3年度はモデル地域内の地域交流センターにおいて、児童生徒との繋がりを強化することを目的として、児童生徒向け、子育て支援の教室・講座の充実、強化を行った。 令和4年度で県のモデルとしての最終年度となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることを前提として、新しい生活様式に対応した取り組みとなるよう、引き続き、地域や学校へ働きかけを行っていく。								
<b>【成果指標】 前期目標 (令和5年) 50人</b>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域人材養成講座受講者数(累計)(人)</td> <td>25人</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table>		項 目	令和2年度	令和3年度	地域人材養成講座受講者数(累計)(人)	25人	33人		
項 目	令和2年度	令和3年度							
地域人材養成講座受講者数(累計)(人)	25人	33人							
<b>【成果指標】 前期目標 (令和5年) 5人</b>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会教育主事講習終了者数(累計)(人)</td> <td>1件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>		項 目	令和2年度	令和3年度	社会教育主事講習終了者数(累計)(人)	1件	0件		
項 目	令和2年度	令和3年度							
社会教育主事講習終了者数(累計)(人)	1件	0件							

文化芸術体験 等事業 〔決算額〕 5千円	<p><b>【事業概要】</b> 地域住民や児童生徒を対象に、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらうことを目的として、講座の開催等を行う。</p> <p><b>【取組内容】</b> 竹原市文化団体連盟と連携し、美術体験講座「陶芸 来年の干支“寅（とら）”を作ろう！」を開催した。また、各活動団体が主となって、学校において生花・琴・舞踊等を指導し、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらい、文化芸術を後世に伝えていく取り組みを行っている。なお、学校との合同発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかった。</p> <p>〈参加者の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間が経つのが早かったです。無の時間でリフレッシュできました。</li> <li>○難しかったですが、満足のいく作品になりました。</li> <li>○陶芸を初めて体験しましたが、楽しかったです。講師の先生方の指導も分かりやすく丁寧で初心者でしたが”とら”を作る事が出来ました。大変良い経験ができました。</li> </ul> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="437 1077 1377 1173"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美術体験講座参加者数</td> <td>14人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度	令和3年度	美術体験講座参加者数	14人	15人
	令和2年度	令和3年度					
美術体験講座参加者数	14人	15人					
<b>点検結果</b>	<b>達成度</b>						
地域交流センターを中心に、児童生徒と地域の連携強化を図った。また、学校運営協議会へ出席し、県モデル事業「学びから始まる地域づくりプロジェクト」事業の説明を行い、学校との連携を図った。	ある程度達成している						
<b>今後の取組</b>	<b>今後の方向性</b>						
地域と学校の連携をさらに強化し、学びを通じた、地域づくりを進めていけるよう、忠海地区をモデル地区とし他地域の参考となるモデル的な取組を構築する。	拡大・重点化						

重点的施策 スポーツ・芸術の振興【生涯学習・青少年育成】		担当課						
事業内容		文化生涯学習課						
○普及、指導団体を担う人材の育成 ○各種スポーツ・文化芸術イベントの開催								
事業目標								
スポーツ・芸術文化の普及、指導団体を担う人材の育成に取り組むとともに、豊かなスポーツライフ、文化・芸術振興に向けた環境の充実に努める。								
主要事業								
スポーツ 推進委員 活動事業 〔決算額〕 147千円	<p><b>【事業概要】</b> スポーツの振興のため、地域住民に対しスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行う。また、各種研修会・研究大会等にも参加し、相互の情報交流と資質の向上を図る。</p> <p><b>【取組内容】</b> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種研修会等の多くが中止になった中で、尾三地区スポーツ推進委員協議会理事研修会に、5名が出席した。また、スポーツ基本法の知識習得や国の動向などの最新の情報提供に努めた。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各種研修会参加者数（延）</td> <td>中止</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度	令和3年度	各種研修会参加者数（延）	中止	5人	
	令和2年度	令和3年度						
各種研修会参加者数（延）	中止	5人						
トップアスリート等スポーツ教室 〔決算額〕 90千円	<p><b>【事業概要】</b> 子供たちがスポーツを通じて夢や目標をもち、取り組むことにより、競技力の向上を目指すとともに、様々なスポーツに触れる機会を提供する。加えて、指導者もトップ選手等の指導方法を学び、指導力の向上・育成にもつなげるとともに競技団体の組織強化と地域の競技活動の促進を図る。</p> <p><b>【取組内容】</b> NPO法人トップス広島の協力を得ながら、加盟団体の選手によるスポーツ教室・講習会を開催する。令和3年度は、市内小中義務教育学校児童生徒を対象にNTT西日本ソフトテニス部によるソフトテニス教室を開催した。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トップアスリートスポーツ教室等参加者数</td> <td>152人</td> <td>29人</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度	令和3年度	トップアスリートスポーツ教室等参加者数	152人	29人	
	令和2年度	令和3年度						
トップアスリートスポーツ教室等参加者数	152人	29人						

<p>各種大会等開催事業</p> <p>〔決算額〕</p> <p>1,426千円</p>	<p><b>【事業概要】</b></p> <p>市民が様々なスポーツに触れる機会を創出するとともに、競技力の向上、健康増進等を目的として、各種大会等を開催する。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <p>竹原市スポーツ協会、竹原市陸上競技協会等と連携し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、種目を限定する形式で、市民体育大会を開催した。東京2020パラリンピックの聖火とするため、「たけはらの火」を採火し、「広島県の火」として集火され開催都市東京へ送った。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="392 745 1329 992"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民ハイキング参加者数</td> <td>中止</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>市民体育大会参加者数</td> <td>908人</td> <td>905人</td> </tr> <tr> <td>竹原駅伝競走大会参加チーム数</td> <td>中止</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>竹原ロードレース大会参加者数</td> <td>中止</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度	令和3年度	市民ハイキング参加者数	中止	中止	市民体育大会参加者数	908人	905人	竹原駅伝競走大会参加チーム数	中止	中止	竹原ロードレース大会参加者数	中止	中止
	令和2年度	令和3年度														
市民ハイキング参加者数	中止	中止														
市民体育大会参加者数	908人	905人														
竹原駅伝競走大会参加チーム数	中止	中止														
竹原ロードレース大会参加者数	中止	中止														
<p>竹原市美術展開催事業</p> <p>〔決算額〕</p> <p>136千円</p>	<p><b>【事業概要】</b></p> <p>市民の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市美術協会と共催により、展示・鑑賞の機会を提供できる展示会を実施する。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <p>広く市民から美術作品を公募し、創作活動を奨励するとともに、鑑賞の機会を提供することとし、竹原市美術展を開催した。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="392 1417 1329 1507"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市美展応募者数</td> <td>40人</td> <td>31人</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度	令和3年度	市美展応募者数	40人	31人									
	令和2年度	令和3年度														
市美展応募者数	40人	31人														
<b>点検結果</b>	<b>達成度</b>															
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした大会が多数となったが、感染拡大防止対策を行ったうえで、スポーツに触れ合う機会の提供に努めた。これまでのつながりを生かした関係諸団体との連携等による人材育成・後継者養成を進めていく必要がある。</p>	<p>ほぼ達成している。</p>															
<b>今後の取組</b>	<b>今後の方向性</b>															
<p>関係諸団体との連携等により、引き続き市民が文化・スポーツに触れ合う機会を創出するとともに、それらを担う人材の育成に取り組んでいく。</p>	<p>継続</p>															

<b>重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進</b>		担当課									
<b>事業内容</b>		社会福祉課									
子育てに関する学習機会の提供による家庭教育力の向上											
<b>事業目標</b>											
子供が家庭で社会生活に適応するために必要な生活習慣などを身につけながら健やかに成長していけるよう、ニーズに応じた養育支援や子供への直接支援を関係機関と連携して行い、家庭教育力の向上を図ります。											
<b>主要事業</b>											
家庭相談業務 〔決算額〕 5,463千円 子ども会育成事業 〔決算額〕 非予算事業	<p><b>【事業概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育に課題がある家庭の子供の権利を守るため、家庭相談員が関係者と連携を図りながらその保護者等への相談・指導を行う。</li> <li>・子ども会育成団体の自主運営の促進及び子ども会活動の円滑な運営を推進し、児童の健全育成を図る。</li> </ul> <p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3名の家庭相談員が養育に課題がある家庭を適宜訪問し、相談・指導を行った。</li> <li>・子ども会育成事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童相談件数</td> <td>159件</td> <td>171件</td> </tr> <tr> <td>子ども会育成事業の参加児童数</td> <td>中止</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和2年度	令和3年度	児童相談件数	159件	171件	子ども会育成事業の参加児童数	中止	中止	
項 目	令和2年度	令和3年度									
児童相談件数	159件	171件									
子ども会育成事業の参加児童数	中止	中止									
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>									
関係機関との情報連携を行うことで養育に課題がある家庭を的確に把握し、家庭相談員が保護者に子育てに関する指導を行うなど、家庭教育力の向上を図った。		達成している									
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>									
引き続き家庭相談員を継続的に配置し、養育に課題がある家庭に関わりながら青少年の健全な育成を図る。子ども会育成事業については、子ども会加入児童数が減少傾向にあるため、事業の見直しを行う。		改善									

<b>重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進</b>		担当課						
<b>事業内容</b>		社会福祉課						
家庭，学校，地域等の連携による地域全体の教育力の向上								
<b>事業目標</b>								
青少年が心身ともに健やかに成長し，自らが持つ個性や能力を活かして社会で自立できるよう，家庭や学校，地域などの連携による教育力の向上を図ります。								
<b>主要事業</b>								
青少年育成竹原市民会議 〔決算額〕 950千円	<b>【事業概要】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが，相手の立場や心情に共感する力，論理的に物事を考える力，自分の主張を正しく伝える力，広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につける機会とすることを目的とする，中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会を開催。</li> </ul>						
	<b>【取組内容】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため録画収録による大会を開催し，県大会に推薦した</li> <li>・青少年育成竹原市民会議の地域活動として，挨拶運動や体験活動，世代間交流を実施した。</li> </ul>						
	<b>【指標】</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話し方大会参加生徒数</td> <td>中止</td> <td>12名</td> </tr> </tbody> </table>		項 目	令和2年度	令和3年度	話し方大会参加生徒数	中止
項 目	令和2年度	令和3年度						
話し方大会参加生徒数	中止	12名						
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため録画収録による大会を開催し，市内2中学校・2義務教育学校からそれぞれ選ばれた12名の生徒が，未来への希望や提案などの意見発表を行った。</li> <li>・青少年育成竹原市民会議の地域活動として，挨拶運動や体験活動を実施し，世代間交流ができた。</li> </ul>		達成している						
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>						
引き続き家庭や学校，地域などと連携した同様の取り組みを通じて，青少年の心身の健やかな成長を促し，地域を支え，世界で活躍する人材を育成する。		継続						

重点的施策 文化財の保存・継承の推進【歴史・文化財】		担当課	
<b>事業内容</b>		文化生涯学習課	
○文化財及び歴史資料の調査・記録 ○文化財の指定・登録による保存・継承 ○町並み保存地区における伝統的建造物の保存修理と修景による歴史的景観の保全			
<b>事業目標</b>			
文化財及び歴史資料の調査・記録を実施するとともに、文化財指定・登録等により後世への保存・継承を図る。			
<b>主要事業</b>			
文化財指定事業 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b>	文化財を保存し、活用を図るため、調査を行った未指定の文化財を、竹原市指定文化財に指定した。	
	<b>【取組内容】</b>	長善寺の仏像を竹原市重要文化財（美術工芸品）に、竹原町の長寿ブドウを竹原市天然記念物に指定した。	
	<b>【成果指標】 前期目標（令和5年）35件</b>		
	項 目	令和2年度	令和3年度
	国・県・市指定及び登録文化財件数(合計)	34件	36件
旧森川家住宅 調査分析事業 〔決算額〕 2,199千円	<b>【事業概要】</b>	旧森川家住宅（竹原市重要文化財）について、文化財的価値を明らかにするとともに、今後の保存・活用方針を検討するため、調査を行った。	
	<b>【取組内容】</b>	調査結果を取りまとめた調査報告書を作成し、市民を対象（子供向け・大人向け）とした調査報告会を開催した。	

<p>伝統的建造物 群保存事業 〔決算額〕 8,374 千円</p>	<p><b>【事業概要】</b> 町並み保存地区を保存し、後世に継承するため、建造物の修理を実施した。</p> <p><b>【取組内容】</b> 民間所有の建物の修理3件に対して補助を行った。</p> <p>〈事業成果〉 ○ 長年空き家で傾いていた物件の建て直しをしたことにより、継続して修理することで活用につながる事となった。</p> <p><b>【成果指標】 前期目標（令和5年）153件</b></p> <table border="1" data-bbox="424 696 1366 846"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）</td> <td>156件</td> <td>159件</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和2年度	令和3年度	伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）	156件	159件
項 目	令和2年度	令和3年度					
伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）	156件	159件					
<p><b>点検結果</b></p>	<p><b>達成度</b></p>						
<p>文化財の指定や町並み保存地区内での建造物の修理等に取り組んだ結果、文化財の保存・継承を図ることができた。</p>	<p>達成している</p>						
<p><b>今後の取組</b></p>	<p><b>今後の方向性</b></p>						
<p>文化財の保存・継承をより一層推進するため、文化財の調査や建造物の修理等に取り組む。</p>	<p>拡大・重点化</p>						

<b>重点的施策 文化財の活用の推進【歴史・文化財】</b>		担当課						
<b>事業内容</b>		文化生涯学習課						
○文化財の公開活用の促進 ○文化財の適正な維持管理 ○歴史的建造物の活用に向けた取組								
<b>事業目標</b>								
町並み保存地区をはじめとする文化財を適切に維持し、文化財の公開活用に取り組む。								
<b>主要事業</b>								
文化施設管理 運営事業 〔決算額〕 14,665千円	<b>【事業概要】</b> 伝統的建造物を活用し、文化財に対する意識向上を図るため、文化施設の公開を行った。 <b>【取組内容】</b> 文化4施設（旧松阪家住宅・旧光本家住宅・旧森川家住宅・竹原市歴史民俗資料館）について、直営により公開を行った。各施設で体温表示システムを導入するなど新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に取り組みながら、旧森川家住宅で企画展示（宗勝ゆかりの文化財展）を行った。 なお、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言等を受けて、文化4施設を約4カ月間休館にした。 <b>【成果指標】前期目標（令和5年）64千人</b> <table border="1" data-bbox="424 1216 1366 1312"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化4施設入館者数（延べ）</td> <td>11千人</td> <td>12千人</td> </tr> </tbody> </table> ※新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者が激減したままとなった。（参考：令和元年度45千人）	項 目	令和2年度	令和3年度	文化4施設入館者数（延べ）	11千人	12千人	
項 目	令和2年度	令和3年度						
文化4施設入館者数（延べ）	11千人	12千人						
歴史的建造物 社会実験実施 事業 〔決算額〕 990千円	<b>【事業概要】</b> 市が所有する歴史的建造物について、特別感や地域特性を演出できる施設を目指し、民間事業者による社会実験の事業者を公募し、決定した。 <b>【取組内容】</b> 町並み保存地区及びその周辺にある市有の歴史的建造物全7施設（竹原市歴史民俗資料館・旧光本家住宅・竹原市町並み保存センター・旧吉井家住宅・旧上吉井家住宅・旧松阪家住宅・旧森川家住宅）を対象として、社会実験を実施する民間事業者を募集し、審査の上、事業者を決定した。 なお、社会実験は、令和4年度に実施する。							

点検結果	達成度
<p>文化施設の公開等に取り組んだ結果、一定の程度は文化財を活用することができたが、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、伝統的建造物の保存・活用方法について再検討する必要がある。</p>	<p>ほぼ達成している</p>
今後の取組	今後の方向性
<p>引き続き、直営により文化施設の公開を行う。</p> <p>その上で、魅力ある施設となるよう展示の充実等を進めるとともに、入館者が激減している状況を踏まえ収支の改善にも取り組む。</p> <p>また、歴史的建造物の社会実験を実施し、その事業内容等について評価・分析を行う。</p>	<p>継続</p>

<b>重点的施策 歴史資産の普及啓発の推進【歴史・文化財】</b>		担当課	
<b>事業内容</b>		文化生涯学習課	
○歴史・文化財に関する講座等の開催による普及啓発 ○文化財に関する情報発信			
<b>事業目標</b>			
本市の歴史や文化財などの歴史資産に対する誇りや愛着を醸成するため、本市の歴史資産の普及啓発を実施し、次世代育成に努める。			
<b>主要事業</b>			
竹原歴史文化啓発事業 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b>	子供たちに竹原の歴史・文化財を知ってもらうため、小学校の総合的な学習の時間において歴史文化の説明を行った。	
	<b>【取組内容】</b>	竹原市歴史民俗資料館等で、竹原市内の小学校2校（竹原西小学校・大乗小学校）及び義務教育学校1校（忠海学園）の児童に対して、まちなみ保存地区、伝統産業等の説明を行った。 〈児童の感想〉 ○ 歴史民俗資料館が、元々が図書館だったことに驚いた。 ○ 昔、竹原では塩を作って全国に売っていたことが分かった。 ○ 旧森川家住宅に入って見学できたことが一番心に残った。	
	<b>【成果指標】前期目標（令和5年）80人</b>		
		令和2年度	令和3年度
	市内小学校等の文化4施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ）	135人	96人
埋蔵文化財啓発事業 〔決算額〕 80千円	<b>【事業概要】</b>	市民に竹原市内で10年振りに実施された埋蔵文化財の発掘調査を知ってもらうため、発掘調査の現場見学を行った。	
	<b>【取組内容】</b>	城の本遺跡発掘現場で、賀茂川中学校全生徒の見学、竹原市内の小学生と対象とした歴史体験講座、住民向けの見学会を行った。 〈歴史体験講座参加者アンケート〉 ○ いつも通っている道のすぐ近くに遺跡があることに驚いた。 ○ 穴に建物の柱を埋めるなど、昔の暮らしの様子がわかった。 ○ 学校で勉強したばかりだったので、その時代の人が生息した跡が見れて不思議な気持ちになった。	

点検結果	達成度
児童への歴史文化の説明や埋蔵文化財の発掘調査の現場見学等に取り組んだ結果、歴史資産の普及啓発を進めることができた。	達成している
今後の取組	今後の方向性
引き続き、歴史資産の普及啓発を進めるため、歴史・文化財に関する講座の開催や情報発信等に取り組む。	継続

## 4 評価委員の評価

### 【評価委員】

元広島大学准教授	佐々木 哲 夫
元広島県教育委員会教育部指導第三課課長代理 元公立中・高等学校長	安 原 敏 光
元竹原市 PTA 連合会会長，元豊竹 PTA 連合会会長	辰 己 寛
広島県生涯学習センター所長	田 崎 志 緒
奥田元宋・小由女美術館長	植 田 千佳穂

教育委員会の事務の点検及び評価を行うにあたり，令和4年8月2日に学識経験者 5名により，次のとおり点検及び評価をいただきました。

#### I 総括的な意見

今日、グローバル化や高度情報化、知識基盤社会が世界規模で加速度的に進展している。我が国においても、新しい価値やサービスを創出する Society（ソサエティ）5.0 の実現が謳われ、その一方途として近い将来を担う子供たちに対し、全ての人とモノがつながる IoT（Internet of Things）や人工知能（AI）環境の中で諸課題を解決し逞しく生き抜く力の育成が要請されている。令和3年、中央教育審議会答申は、全人的教育を標榜する「令和の日本型学校教育」を柱に、個別最適な学びと協働的な学びを提唱し、これらを推進する有力なツールとして ICT の汎用を求めている。まさに教育界においても、文部科学省が推し進める GIGA スクール構想を初め教育 DX（Digital Transformation）推進によるデジタル化の普及が喫緊の課題となっている。

一方、新型コロナ禍や自然災害、また、今年2月には、ロシアによるウクライナ侵攻など予測不可能な憂慮すべき事態が次々と生起し、国際情勢は、まさに日々、政治、経済、教育、福祉、環境等、広範な分野に及ぶ様々な課題が表面化かつ深刻化の途を辿っている。

こうした中、改めて社会全体が教育に依存し、教育が社会構造を下支えしていることが浮き彫りになった。また、近年全国津々浦々、少子高齢化、過疎化やコロナ禍等に誘引された社会コミュニティの衰退が顕在化し、地域創生が喫緊の課題として学校教育や生涯学習に対し大きな期待が寄せられている。

そこで、子供たちには、生き抜く力と連絡した社会的包摂（social inclusion）を基軸とする持続可能な社会を築く資質・能力を身に付けさせることが極めて肝要である。

こうした中、竹原市教育委員会におかれては、先述した時代の趨勢を見極めつつ持続可能な竹原市を標榜し策定された第6次竹原市総合計画（平成31年3月）に依拠した竹原市教育大綱等をもとに、進取果

敢に教育施策を展開し改革を進めている。「故郷を大切に、未来を拓く人づくり」を基本理念に、具体的重点施策としては、グローバル化、高度情報化等を視野に入れた「未来の人材育成」や「ICT活用教育」の推進である。また、本市の先人が創り上げた掛け替えのない文化、伝統、歴史を大切にしつつ持続可能な本市の未来を標榜した、地域とともにある学校づくりを駆動するコミュニティ・スクールの全校展開である。双方ともに時宜を得た施策として大いに評価できる。

ところで、全国各地においてコミュニティ・スクールのシステム導入の際、「支援・協力型」の地域とともにある学校づくりに留まる事例が散見される。本市教育委員会、市内各小・中学校・義務教育学校（以下「各市立学校」と表記）におかれては、本来の目的である地域創生を視野に入れた「協働・共創型」の地域とともにある学校づくりを目指すことを切望するものである。学校と家庭・地域社会が「持ちつ持たれつ」の対等の関係を維持しつつ新たなコミュニティと学びを創り出すというものである。学校が家庭・地域社会からエネルギーをもらう一方で、地域に住む人たちも学校からエネルギーをもらう、互助、共助の持続可能な社会を創造する関係づくりが望まれる。そして、その暁には、個人や周囲の人たち、社会全体が持続的な幸福感（Well-being）を体現することが視野に入ってくる。このことを達成するためには、各校における創造的なカリキュラム・マネジメントの遂行及び実効性のある「協働・共創型」の地域とともにある学校のシステムづくりが緊要なミッションになる。

本市におけるコミュニティ・スクールについては、周到な準備の下、令和3年度から全市立学校で本格実施され、各学校において特色ある手堅い実践が始まっている。ただ、取組は緒に就いたばかりであり「竹原市立学校適正配置懇話会」が実施した保護者アンケート結果でも顕在化したように、コミュニティ・スクールの認知度は高くない。本市教育委員会におかれては、こうした課題を踏まえ、間髪入れず市の広報誌等で啓発を行っており、時宜を得た取組と評価できる。今後においては、地域総掛かりでの子育てを遂行できる体制を整え、それが実働すれば、地域コミュニティも一段と活性化し、本市及び本市教育委員会が総合計画及び教育大綱等で掲げる目標が完遂できると考える。

具体的な方策としての次の提案について一考していただければ幸いである。国においては、共働き家庭やひとり親家庭が働きながら安心して子育てができるよう、平成30年9月、新・放課後子ども総合プランを策定した。本プランは、放課後児童クラブと放課後子ども教室一体型の運営により子供たちの安全・安心を確保しつつ多様な体験・活動を通して全人格的な発達を目指し策定されたものである。一貫した取組として、地域創生の観点から、学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）が提唱されるとともに、地域学校協働推進委員（社会教育法第9条の7）を中心とした地域学校協働活動が推奨されている。今後においては、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体化した子供たちに対する放課後や休日での地域総掛かりでの文化芸術、スポーツ、科学技術等各分野での子育てプログラムの開発、展開を期待するものである。幸いにも、本市においては、各分野ともに地域人材が豊富などであり、教育委員会、福祉部局等のイニシアティブのもと、多彩なプログラムの開発、展開による、時代の要請に応える子供たちの学びが保障されるものと確信する。

さて、全国の児童生徒数が今後10年間で100万人減少すると推定されるなど、少子化が一段と進み、全国津々浦々学校規模の適正化を求め公立学校の統廃合が余儀なくされる。子供たち一人一人の最適な学びを保障するためには、価値観が異なる子供たちが、お互いの立場を尊重し、認め合い、切磋琢磨し高め合う一定数の集団規模の確保が求められる。竹原市立学校適正配置懇話会においては、教育長の諮問を受け、去る今年2月、将来を見据えた市立学校の適正な在り方等について答申を行った。答申の主旨

は、近い将来標榜されている「竹原学園（仮称）」創設を見据え、今後においては、地域の教育力を活かした子供たちの最適な学びを実現するためにはどうあるべきかを、あらゆる人があらゆる機会を捉え熟議し、本市としての意思形成を図られることを期待するものである。

ここ数年来、本市の学校教育、生涯学習ともに総じて安定しており、本市教育委員会の長期スパンに立った各種事業の揺るぎなく手堅い遂行及び各市立学校並びに市民に対する緻密なアプローチ・支援の賜物と考える。

また、前年度の本評価委員会の意見等も参考にされつつ、真摯に各事業を精査し改善・改革を図られていることに深く敬意と感謝を表す。特に、一昨年度意見の一つとして提案した各事業での数値指標に基づく自己評価については、数多くの事業において国や県との安易な数値比較のみで有意性を断ずるのではなく、日常的な実態の綿密な見取りやアンケート分析等も加味され総合的に客観性を担保しようとしておられることに高く評価できる。

今後も引き続き、本市の総合計画、教育大綱等に依拠した複数部署にまたがる未来志向のシステムづくり及びマネジメントの遂行を期待する。

以下については、本市教育委員会が所管されている令和3年度各事業のうち特筆すべきものを抽出し評釈するものである。

## II 各事業に対する意見

### 1 コミュニティ・スクール導入事業

本市教育委員会が、周到な準備のもと、令和2年度から先行して導入された市内4小・中・義務教育学校での学校運営協議会の成果と課題を普遍化し、令和3年度からは全市立学校で計画通りに展開されている。とりわけ、コロナ禍の影響で各学校に対する指導助言、研修会の開催及び先進校視察等がままならない中でも、各学校のHPからは学校運営協議会による地域に根差した特色ある取組の見取りができ、設置者としての責務を十分果たしていると評価できる。各市立学校の教育活動の全体を概観すると、各校とも長年にわたる地域実態に応じた密接な連携による学校づくりが図られており、理想とする地域とともにある学校の実現が目前にあると考える。特筆すべきこととして、「令和3年度全国学力・学習状況調査」の質問紙調査の一項目「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。」の肯定的回答の割合が、本市の小学生は全国平均より10ポイント近く、中学生においては16ポイントも高くなっている。この要因は紛れもなく、本市教育委員会の「故郷を大切にし、未来を拓く人づくり」の基本理念をもとに、各学校が地域とともにある学校づくりに照射したカリキュラム・マネジメントを駆動させたことを裏付ける子供たちの生き方・あり様が体現化した一つの証左である。

### 2 教職員の人材育成

本市教育委員会が主催される研修等により、各教職員のキャリアステージに応じた職能成長が着実に図られていることが見て取れる。とりわけ、広島大学教職大学院等とのコラボ研修等による主任等ミドル層に対する学校経営への参画意識を醸成する研修の充実が、各市立学校の円滑な学校経営を促すとともに、次期管理職候補の力量形成に繋がっている。

ところで、平成28年の教育公務員特例法の改正により都道府県教育委員会等による教員等資質向上指標が策定されている。本市教育委員会におかれては、教職員個々の人材育成をより堅実なものとするため、これらの指標を参考にしつつ管理職の「人材育成計画」と教職員自身の「成長のビジョン」を連関さ

せ、キャリアアップの方向性を明確にしている。併せて、OJT、Off-JT を有機的に絡ませ効率的なキャリアアップを促している。これらのことにより果敢に管理職選考試験に挑戦する者が年々増加傾向にあり、成果に繋がっていると考える。

また、人材育成には、校外研修の受講奨励とともに、校内研修を軸とした校内の組織文化、風土の醸成の如何が大きく影響するところである。本市教育委員会におかれては、管理職に対し、教職員が日常的に経験年数や世代を超えた確かな教育理念に基づく教科指導、学級経営、校務運営等の教育技術の習得及び求められる教職員像の力量形成を図る場づくりを、メンターが中心となり積極的に仕組むよう奨励している。市内の全ての学校において、支持的風土のもと教職員が協働的に教育活動を展開しており成果が見て取れる。

### 3 未来の人材育成事業

グローバル化やダイバーシティが加速度的に進む中、子供たちには今後益々異文化や多様性を受容し、社会的包摂の理念のもと、協働して持続可能な社会を創造するためのコミュニケーションスキルや語学力、併せて OECD が唱えるエイジェンシー（自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲；文部科学省解釈）を身に付けることが求められる。

本市教育委員会におかれては、海外派遣研修（令和3年度はコロナ禍でやむなくオンライン修学旅行）や1 DAY 国内留学の事業を通して、児童生徒の英語力の向上と併せて、異文化、自文化理解の深化を目指していることが見て取れる。また、ここ数年間の英語検定3級取得率の平均は、全国平均を上回っており、関係事業等の手堅い遂行の成果と見なすことができる。

今後、各市立学校では、一貫した英語力向上に向けての外国語活動及び外国語科を中心とする全教育活動を通じたダイナミックなカリキュラム・マネジメントの遂行が求められる。併せて、保護者、地域住民への積極的な啓発が本事業の趣旨の完遂に寄与すると考えられ、引き続き、本市教育委員会のより丁寧な助言、支援、啓発を期待する。

### 4 「学びの変革」全校展開

令和2年度から全国の全小学校、令和3年度から全中学校において「社会に開かれた教育課程」をコンセプトにした新学習指導要領に則った学習活動が実施されている。

各市立学校においては、ここ数年来、教員の授業力向上に係る研修を充実し、学習指導要領に準拠した手堅い教育活動を展開している。また、児童生徒の学力の定着状況については、「全国学力・学習状況調査」等を主たる拠り所として、その結果を分析、評価することにより、さらなる授業改善に努め、全市的には一定の成果が上がっていることが見て取れる。

今日、全国の諸学校においては、子供たちに身に付けさせたい資質・能力として、認知能力のみならず前述した OECD が提唱するエイジェンシーに繋がる対人間関係能力、総合的な人間力等の育成を射程に入れ、校種を問わず STEAM 教育や SDGs に照射した PBL（問題解決型学習）等に挑戦している。

本市教育委員会におかれても、モデル校を指定するなどして各市立学校で探究を主たる学びとした「課題発見・解決学習」の単元開発を奨励し、各市立学校においては成果を上げつつある。その一例として、賀茂川中学校では、地元企業が企画、公募したイベントに応募し、総合的な学習の時間を主として培った企画力、プレゼンテーション力等を遺憾なく発揮し、そのイベントでの最優秀賞受賞やキャリア教育に

係る文部科学大臣表彰を受賞するなど成果として表れている。また、市内の複数の学校において、探求型の学びを、従前の総合的な学習の時間における実践を主としつつも各教科等での実践に波及した事例も増えており、現行の学習指導要領の趣旨をまさしく体现化させた取組として高く評価できる。

今後においても、引き続き広島版「学びの変革」アクションプランを奨励されるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を児童生徒に如何に保障するか、また、「本質的な問い」を如何に吟味し究めるかを、各種研修会や校内での授業研究等で継続して追究されることを大いに期待するものである。

## 5 学校 ICT 活用教育推進事業

本市教育委員会におかれては、高度情報化社会を見据え、子供たちが近未来の社会において逞しく生き抜く資質・能力を育成する一方途として、全国に先駆け長年にわたって ICT 活用教育を推進され、多くの成果を上げている。今現在も先進地域として認知され、その成果に学ぼうと県内外からの視察が途絶えることなく、成果を広く普及していることは高く評価できる。

これまでの先進的取組が功を奏し、各市立学校においては、この度のコロナ禍による児童生徒の学びの遮断も最小限に留めている。例えば、児童生徒の探究的な学びと健康安全を保障する一人1台端末の導入やオンライン授業等が全市立学校において円滑に実施される中、適正な学習機会が担保されている。特に、1校当たりの ICT を活用した授業時数が前年度の2倍以上となっており、成果の現れとして見て取れる。また、現在は市内の4年生以上の児童生徒が端末を家庭に持ち帰ることが可能な体制を整備しており、学校での習得、活用、探求型それぞれの学びをさらに深化、発展させている状況があり、学びに向かう態度が着実に育成されていると考える。今後においては、本市教育委員会が危機管理の視点から注視している子供たちの情報モラルや犯罪に巻き込まれないための指導を各学校に継続して重点的に指導・助言していただきたい。

また、教職員の働き方改革を推進するオンライン会議・研修等が恒常的に実施できるよう鋭意取り組み、その結果、児童生徒、教職員ともに、ピンチをチャンス、チェンジに変える好機と捉え教育活動の活性化に努め、本市の教育改革を後押ししていると言える。

今後においては、プログラミング学習や遠隔授業による児童生徒の資質・能力のさらなる向上を図り、本市教育委員会のこれまでの実績及び充実した ICT 環境のもと、引き続き本市の将来を担う子供たちの育成を図ること及び成果を普及することを強く期待するものである。併せて、昨年度の本評価委員会の指摘事項の一つである、文部科学省推薦の校務の効率化や教職員の負担軽減に繋がる働き方改革の一環としてのクラウド活用による「統合型校務支援システム」の導入について、現在、本市教育委員会が財政と鋭意協議、折衝を進めているとのことであり、教職員や子供たちを守る真摯な取組に敬服する。

## 6 特別支援教育

二十有余年前に他校種で省令として制定された学校設置基準が、昨年やっと特別支援学校においても制定され、本年4月から施行されている。冒頭で明記した個別最適な学びを内包した一連の動きと捉えることができる。

そうした中、本市教育委員会におかれては、特別支援教育に係る研修等を充実されるとともに、発達障害を含む障害のある児童生徒を主たる対象に、市費による介助員を28名配置されるなど、当該児童生徒をはじめ、誰一人残すことのないよう支援体制を強固にし、最適な学びを保障しようとしていることは高

く評価できる。

## 7 生徒指導支援事業・小中一貫教育の推進

コロナ禍をはじめ、子供たちを取り巻く社会情勢が刻々と変化する中、全国的に生徒指導上の課題が従前よりも増して多様化、複雑化かつ深刻化している。また、従前から思春期を迎える小学校高学年から中学時代は、全国的に心の不安定さに起因する、暴力行為、いじめ、不登校等の発生率が顕著に高まる傾向にあり、本市におけるこの時期の発生率の高さも例外ではない。この課題解決のためには、各学校における「チーム学校」として一貫した指導体制が求められており、特に、小・中学校間の円滑な連携・接続のもとでの教育活動の展開が重要視されているところである。

昨年度の本都市立学校の生徒指導上諸問題の状況を概観すると、小・中学校ともにいじめの認知件数が、中学校では不登校数が増加しており、早急な要因分析、改善方策、説明責任が求められる。

そうした中、本市におかれては、平成30年度に義務教育学校として吉名学園が開校したのに続き、令和3年度から忠海学園が開校し、9年間を見通した生徒指導体制が確立され、両校ともに生徒指導上の諸課題が減少しつつあると聞く。

市内の他の中学校区におかれても、小中連携の会議や研修を積極的に実施され、義務教育学校同様、9年間を見通した教育課程の編成、小・中学校合同の行事の開催、小・中学校の一貫した発達の段階や個の実態を考慮した個別最適化な学びの保障、校則の見直し等により、連続性のある学習指導、生徒指導が図られており、今後さらなる成果が上がると思われる。

## 8 竹原市立学校適正配置懇話会事業

子供たちは、同じ学び舎の下で、多様な見方、考え方に触れ新たな価値を見出すとともに、認め合い、高め合い、切磋琢磨することにより自らの資質・能力を伸長することが大切であり、そのためには一定数の集団規模が必要である。

今後の本市学校教育の今後の在り方を模索するうえで、去る今年2月の竹原市立学校適正配置懇話会の答申内容は、示唆に富んだものとなっている。本事業の立ち上げが時宜を得たものであるとともに、第6次竹原市総合計画及び教育大綱等が提唱する本市の将来像を達成するうえで、重要な主幹事業と評価する。地域とともにある学校づくりの目的の一つに、学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）も唱えているところであり、子供たちの健やかな成長とともに、地域創生を視野に入れた学校適正配置の論議がなされるべきである。本評価委員会としては、学校を核とした地域づくりと学校適正配置が相容れない二項対立するものとは考えていない。本答申の「はじめに」の一文「（前略）地域の3つの教育力（地域がもう一つの教室、地域住民がもう一人の先生、地域教材がもう一つの教科書）（後略）」を拠り所とした地域とともにある学校づくり、併せて、学校を核とした地域づくりが求められる。そのためには、従前から本評価委員会が提案している、子供たちの学びを内包した地域交流センター活動の在り方は如何にあるべきかを市民総ぐるみで活発に熟議することを期待するものである。

## 9 地域交流センター運営事業・学びから始まる地域づくりプロジェクト

近年、従前から存在する公民館施設の利用率は恒常的な減少傾向が全国的に現出しており、個人の社会的ニーズ等の急速な変化に対応が遅れている公共施設全般の大きな課題とされていた。そうした中、全

国的に、生涯学習を主とする公民館から、生涯学習と併せて地域活動による地域コミュニティの活性化を目指す地域交流センター等へと移行しつつある。本市においても、令和元年度から公民館から移行した各地域交流センターは、これまで市内各公民館で展開されてきた生涯学習事業を一層充実するとともに、世代を超えた新たな交流を生み出すための「仕掛けづくり」の機能を付加し、「地域力向上活動」の拠点としてスタートしている。令和3年度の地域交流センター利用者数は、コロナ禍の影響もあり、前年度同様コロナ禍前と比し減少しているが、前年度より約1000人増加している。

幸いにも、県モデル事業として実施されている「学びから始まる地域づくりプロジェクト」は、忠海地区をモデル地域とし、コミュニティ・スクールとの関連を図りつつ子育て支援及び児童生徒向けのプログラムが開発、試行されている。これは「新しい公共」の概念を活かした自助努力で地域課題を解決するプログラム開発等、地域交流センターを核とした地域づくりを推進する事業の一つとして大いに期待される。とりわけ、前項で提案した、子供たちの故郷を大切にす豊かな学びの核となる場として機能する地域交流センター活動の普及を改めて強く望むところである。

今後とも、令和3年度に数回にわたり実施された、地域づくり課・文化生涯学習課等との連携を継続・発展させ、市民に対する啓発活動を推進するとともに、自治会、協働組織、各種関係団体等の人々の交流と連携の機会と場がさらに活性化するよう諸施策を講じられ、本市の地域コミュニティの創生や協働のまちづくりのさらなる前進を切望する。

## 10 トップアスリート等スポーツ教室

スポーツは、心身の健康や体力の維持増進を図るとともに、人格形成にも大きく関与し、文化的な生活を営むための根幹でもある。また、スポーツの普及により、地域コミュニティの活性化が図られ、地域社会に活力を生み出すことにも副次的な意義がある。

こうした中、本市のスポーツ振興を下支えする推進委員の各種研修会等（コロナ禍により中止）での学びによる資質・能力の向上は、単発的なイベントの場だけでなく、陰に陽に持続的な市民への啓発に繋がると考える。

また、秀でたトップアスリートの直接指導がなされるスポーツ教室（令和3年度はNTT西日本ソフトテニス部）の開催は、子供たちの競技力の向上はもとより、夢と感動を与えるとともに、スポーツへの関心を高める絶好の機会となるゆえ事業のさらなる充実を望む。

毎年度、有限の財源の中で、これまで本市教育委員会が構築したネットワークを大切にしつつ趣向を凝らして有効な教室を複数回開催していることを高く評価するとともに、今後、本市のスポーツ振興がさらに促進されることを期待するものである。

## 11 家庭相談事業・青少年育成竹原市民会議等

本市の持続可能な未来を創出するためには、乳幼児段階から成人になるまで切れ目のない子育て・家庭教育支援活動を推進し、子供たちの健やかな成長を図ることが肝要である。しかし、今日、核家族化や地域コミュニティの衰退による保護者の孤立、併せて経済的に厳しい家庭が増加し、子供の貧困率が上昇する中、健やかな成長を阻害されている現状がある。

こうした現状に鑑み、行政機関や福祉関係機関がイニシアティブをとり、地域や学校等と連携を図りつつ、相互扶助による子育て・家庭教育支援の仕組みづくり、さらには地域づくりが希求されているところ

である。家庭相談員による相談件数も前年度に比し増加しており、今後一層の支援体制の充実が期待される場所である。

幸いにも、本市におかれては、妊娠期から子育て期において、親子の育ちを応援する「たけはらっこネウボラ」等のシステムが軌道に乗っており、さらに昨年度からは社会福祉課と協働し、「竹原市子ども家庭総合支援拠点」を設置して、活動を充実、発展させている。今後はさらに、要保護児童対策地域協議会がイニシアティブをとり、関係機関との連携のもと支援が強固なものになるよう切望する。また、長年にわたって青少年育成竹原市民会議が主催してきた「少年の主張」竹原市中学生話し方大会は、本市の次代を担う中学生のしなやかな発想と鋭い感性による活力溢れた主張が、他の子供たちや保護者に多くの共感と感動を呼び、市民の反響も大きく、引き続き諸団体等との連携のもと本大会のさらなる充実と発展を望む。その他にも、学齢期以降の挨拶運動や体験活動等を初めとする諸施策について重点化を図られ、より強い支援体制が確立することを期待するものである。

## 12 伝統的建造物群保存事業など保存・活用・普及啓発一連事業

地域の歴史的魅力を発信し、地域活性化を図ることを主目的とする日本遺産のひとつに、令和元年度「北前船寄港地・船主集落」として本市の町並み保存地区他が認定された。当該町並み保存地区は、ここ数年来の計画的な整備により、文化・歴史の価値づけや維持・保存を確保するとともに、観光による本市産業の競争力強化の一方途として寄与していると見て取れる。また、当該地区は、「誇りと愛着を持てるまち」「個性的で魅力あるまち」を目指す本市の一環施策として位置付けられている。

本市教育委員会におかれては、歴史・文化財に係る諸事業の連動を基軸に実施されている歴史講座の開催等を通して、本市市民（青少年も含む）のシビックプライドを高め、地域コミュニティの活性化に繋げている。また、先般発見、発掘されている城ノ本遺跡についても、児童生徒の見学会や歴史体験講座等を開催しており、時宜を得た取組と評価する。

また、町並み保存地区や周辺にある歴史的建造物について、保存はもとより、より有効活用を図り全国へ歴史的魅力を発信すべく方策を探るため、令和3年度から民間事業者による社会実験を実施し、令和4年度末最終評価をすることとなっている。こうした官民連携による町並み保存地区等の保存と活用に係るアプローチは、より専門性が発揮され、市内外からの来訪促進、市民のシビックプライドの高揚等が一段と進むと考え評価できる。

今後、各市立学校においては、総合的な学習の時間等を活用し、児童生徒の「郷土竹原」の習得的学びから、探究的学びを創出するカリキュラム開発及び市内各学校への普及を推進することを切望するものである。

## 竹原市教育大綱（抜粋）

## ○ 施策体系

第6次竹原市総合計画～前期基本計画～を構成する4つの将来像のうち、「文教のまちたけはら」の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」「自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」を目指すため、竹原市教育大綱では、『故郷を大切にし、未来を拓く人づくり』を基本理念として設定しました。

この基本理念を実現するため、総合計画の施策の方向性を活かしつつ、教育大綱では、「学校教育」、「生涯学習・青少年育成」、「歴史・文化財」の3項目を柱とし、10年後の目指す姿を掲げ、取組の方向性を示しています。

## 将来像

【人材】「文教のまちたけはら」の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」

【個性】「自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」

## 目標像

【人材】子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている

【人材】市民一人一人が自ら学び、様々な場面で協力しながら活躍している

【個性】竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれている

## 教育大綱：3つの柱【10年後の目指す姿⇒取組の方向性】

## ○【人材】学校教育

夢をもち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことが出来る人材を育成している

## ○【人材】生涯学習・青少年育成

- ・多彩な生涯学習の場が充実し、それらを担い、推進していく人材が育っている
- ・教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への適切な支援をはじめ、乳幼児から青少年まで健全に成長できる環境が充実している

## ○【個性】歴史・文化財

歴史と文化財が保存・継承され、地域の活性化に活かされている

## 基本理念：故郷を大切にし、未来を拓く人づくり

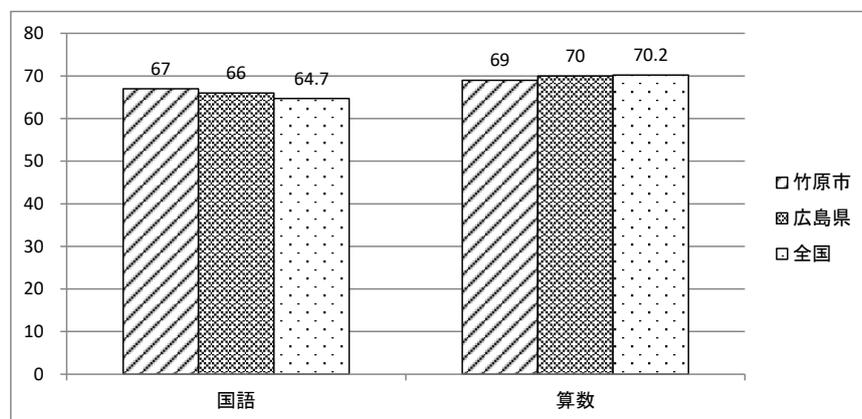
令和3年教育委員会会議開催実績			
教育委員会 開催年月日	開催回数 定例臨時別	議案 番号	件 名
R3. 1. 28	第1回 定例会	1	令和3年度竹原市学校教育ビジョンについて
		2	竹原市重要文化財の指定に係る文化財保護委員会への諮問について
		3	竹原市視聴覚ライブラリーの廃止方針について
		4	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市視聴覚ライブラリー設置及び管理条例を廃止する条例案）
		5	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（市立竹原書院図書館設置及び管理条例の一部を改正する条例案）
		6	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和2年度教育委員会関係補正予算案）
		7	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係当初予算案）
R3. 2. 18	第2回 定例会	報告 1	臨時代理処分の承認について（定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和2年度教育委員会関係補正予算案））
		8	県費負担教職員の任免その他の進退についての広島県教育委員会への内申について
		9	竹原市教育委員会永年勤務職員表彰について
		10	竹原市立学校学校評議員設置運営要項を廃止する告示案
		11	竹原市立学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部を改正する規則案
R3. 3. 17	第1回 臨時会	報告 2	臨時代理処分の承認について（県費負担教職員の任免その他の進退についての広島県教育委員会への内申について）
		報告 3	臨時代理処分の承認について（定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係補正予算案））
		12	学校薬剤師の委嘱について
		13	視聴覚ライブラリー設置及び管理条例施行規則を廃止する規則案
		14	市立竹原書院図書館長の服務に関する規則を廃止する規則案
		15	市立竹原書院図書館司書設置規則を廃止する規則案
		16	竹原市教育委員会事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則案
		17	竹原市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案
		報告 協議	令和2年度末・令和3年度始教職員の人事異動について
R3. 3. 25	第3回 定例会	18	学校医の委嘱について
		19	学校歯科医の委嘱について
		20	学校薬剤師の委嘱について

R3.3.25	第3回 定例会	21	学校運営協議会委員の任命について
		22	竹原市重要文化財の指定に係る文化財保護委員会への諮問について
		23	竹原市立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則案
		24	竹原市適応指導教室設置要綱案
		25	竹原市立学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部を改正する規則案
		26	竹原市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則案
		27	竹原市立小中学校等の通学区域に関する規則の一部を改正する規則案
		28	竹原市学校給食センター設置条例施行規則の一部を改正する規則案
		報告 ・ 協議	竹原市教育情報セキュリティポリシーについて
R3.3.23	第2回 臨時会	29	職員の任免その他の人事について
R3.4.22	第4回 定例会	30	竹原市結核対策委員会委員の委嘱又は任命について
		31	学校運営協議会委員の委嘱について
		32	市立竹原書院図書館運営協議会委員の任命について
		33	竹原市スポーツ推進委員の委嘱について
		報告 ・ 協議	学校施設の耐震診断結果の公表について
R3.5.27	第5回 定例会	34	竹原市教科用図書採択地区選定委員会委員の委嘱について
		35	竹原市教科用図書採択地区調査員の委嘱について
		36	学校運営協議会委員の任命について
		37	竹原市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
		38	竹原市社会教育委員の委嘱について
		39	令和4年度使用教科用図書の採択基本方針等の改正について
		40	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係補正予算案）
		41	竹原市教育委員会規則で定める申請書等の押印の特例に関する規則案
		42	竹原市教育委員会要綱で定める申請書等の押印の特例に関する要綱案
R3.6.24	第6回 定例会	43	竹原市特別支援教育相談会委員の委嘱について
		44	竹原市特別支援教育相談会推進員の委嘱について
		45	学校運営協議会委員の任命について

R3. 7. 29	第7回 定例会	46	竹原市教育委員会表彰について
		47	竹原市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について
		48	竹原市文化財保護委員会委員の委嘱について
		49	令和4年度使用竹原市中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書の採択について
		50	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和2年度教育委員会関係決算案）
R3. 8. 26	第8回 定例会	報告 4	臨時代理処分の承認について（定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係補正予算案））
		51	令和4年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
		52	令和2年度教育委員会事務点検・評価報告書について
		53	竹原市重要文化財の指定について
		54	竹原市重要文化財の指定について
		55	竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区保存計画の一部を改正する告示案
	56	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係補正予算案）	
R3. 9. 16	第9回 定例会	報告 ・ 協議	竹原市立学校の適正配置について
R3. 10. 28	第10回 定例会	報告 ・ 協議	広島県公立学校教職員人事異動方針について
		報告 ・ 協議	セクシュアル・ハラスメント、妊娠、出産、育児休業、介護休暇等に関するハラスメント及びパワー・ハラスメントの防止等に関する方針について
R3. 11. 25	第11回 定例会	報告 5	臨時代理処分の承認について（定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係補正予算案））
R3. 12. 16	第12回 定例会	報告 ・ 協議	不登校等支援事業について
		報告 ・ 協議	市立竹原書院図書館の現状について

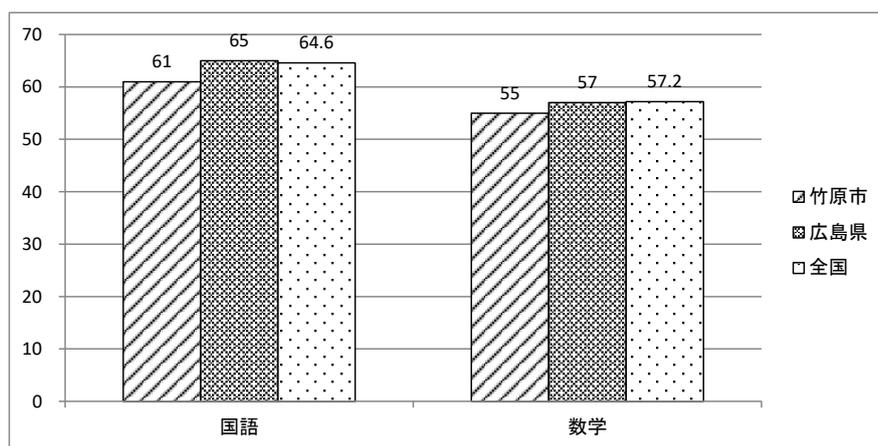
令和3年度全国学力・学習状況調査結果【小学校・義務教育学校】

	国語	算数
竹原市	67	69
広島県	66	70
全国	64.7	70.2



令和3年度全国学力・学習状況調査結果【中学校・義務教育学校】

	国語	数学
竹原市	61	55
広島県	65	57
全国	64.6	57.2



### 令和3年度体力テストの結果

#### 小5男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
R01竹原市	17.80	23.71	39.14	45.45	57.74	9.19	156.93	24.48	59.54
R03竹原市	17.75	19.16	35.97	43.65	50.68	9.39	154.82	22.72	55.56
R03広島県	16.54	20.24	34.37	43.03	50.81	9.30	156.33	22.92	55.16

#### 小5女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
R01竹原市	18.59	23.39	42.22	45.39	51.24	9.32	154.81	16.14	63.68
R03竹原市	17.86	21.18	40.11	45.00	49.99	9.31	159.03	16.49	62.11
R03広島県	16.50	19.28	38.28	41.20	41.62	9.54	149.64	14.33	57.06

#### 中2男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
R01竹原市	30.09	29.78	49.08	52.65	79.40	7.84	187.32	20.14	44.62
R03竹原市	33.12	27.54	48.20	53.47	76.79	7.89	201.94	21.44	45.33
R03広島県	29.26	27.11	45.03	53.28	82.28	7.88	200.81	21.33	43.19

#### 中2女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	点
R01竹原市	23.57	26.88	49.17	47.12	55.98	8.64	165.95	14.17	52.20
R03竹原市	26.18	24.61	51.00	47.72	61.44	8.70	176.14	13.90	54.94
R03広島県	23.82	23.55	47.42	48.12	56.28	8.77	171.43	13.62	50.88

#### 生徒指導上諸問題の状況(令和元年度～令和3年度)

暴力行為		竹原市		広島県	
		発生 件数	1000人 あたり	発生 件数	1000人 あたり
小学校	R01	2	2.0	1,256	8.3
小学校	R02	3	3.2	1,441	9.6
小学校	R03	3	3.4		
中学校	R01	1	1.9	955	12.7
中学校	R02	0	0.0	884	11.7
中学校	R03	1	2.1		
いじめ		竹原市		広島県	
		認知 件数	1000人 あたり	認知 件数	1000人 あたり
小学校	R01	2	2.0	4,702	31.0
小学校	R02	2	2.1	3,794	25.2
小学校	R03	15	17.0		
中学校	R01	1	1.9	2,001	26.6
中学校	R02	3	6.6	1,471	20
中学校	R03	13	27.7		
不登校		竹原市		広島県	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)
小学校	R01	1	0.10	1,330	0.87
小学校	R02	4	0.42	1,638	1.09
小学校	R03	3	0.34		
中学校	R01	8	1.55	2,631	3.49
中学校	R02	9	1.99	2,796	3.78
中学校	R03	21	4.47		

## 令和3年度図書館・美術館利用状況

## (1) 竹原書院図書館利用状況

本館開館日数 290日

移動図書館車 61日

図書の利用

		本館	移動図書館車	合計
個人貸出	登録者数	15,398	—	15,398
	貸出者数	29,107	4,550	33,657
	貸出冊数	136,905	13,442	150,347
団体貸出	団体登録者数	110	—	110
	貸出冊数	6,863	35,225	42,088
停本所	停本所数	10	—	10
	貸出冊数	10,097	—	10,097
貸出冊数合計		153,865	48,667	202,532

## (2) 文化創造ホール利用状況

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用日数	87日	47日	66日
展示会	42日	27日	34日
文化講演・講座	0日	0日	0日
演奏会等	0日	0日	0日
参加型イベント	0日	0日	0日
講習会等	27日	11日	17日
展覧会等準備日数	18日	9日	15日
利用件数	28件	11件	21件
年間入場者数	5,758人	2,335人	2,717人
1日平均入場者数	66.2人	49.68人	41.16人